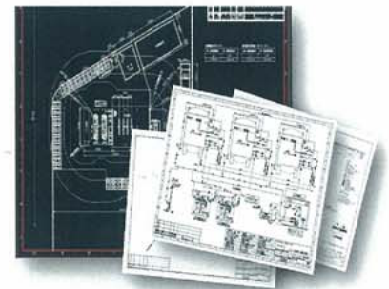


主な内容

- 「地域未来牽引企業」 選定企業紹介
- 「はばたく中小企業・小規模事業者300社」 選定企業紹介
- 「尼崎市内における事業承継支援に関する連携協定」を締結
- 新代表者のご紹介

KAGLA グループは高圧ガス設備の トータルサポートカンパニーです



カグラベーパーテック 株式会社

【代表者】代表取締役 玉井 健一 氏

【所在地】〒661-0025 尼崎市立花町 1-2-1
【TEL】06-6429-2697 【FAX】06-6429-0191

【資本金】5,700 万円 【従業員】79 名

【創業】昭和 33 年 2 月

【URL】http://www.kagla.co.jp/

【事業内容】

- ・LPG ベーパーライザーの製造販売
- ・LPG バルク供給システムの製造販売
- ・LNG 気化器の製造販売
- ・差圧式オートガススタンドの製造販売

代表取締役
玉井 健一 氏

今年で創立 60 周年

今回はカグラベーパーテック株式会社を訪問した。本社はJR立花駅のすぐそばだが、訪問したのは西宮市山口町にある有馬工場である。ここには同社のものづくり全般を担う部署とガスプラント検査を専門とする子会社 カグラエンジニアリング株式会社の本社と事業所がある。カグラベーパーテック株式会社新規事業部長の宮寺氏に話をうかがった。

同社はLPガス充填ポンプの製造販売が始まりで、LPガス普及の時代には、充填所・消費プラントの総合施工・現在主力のLPガス用ベーパーライザー開発・販売へと次々と業務拡大を図り、大手ガス元売会社から「特命受注」するプラント工事も増加。プラント事業は総売上の70%を占め、順風満帆かに思えた。しかしそこにバブル崩壊が訪れ、無競争で切磋琢磨することを忘れていた同社はひとたまりもなく、売上激減、債務超過とたどるべき道をたどってしまう。そんな中で会社再建を託された現社長玉井健一氏は、思い切ってプラント事業からの撤退を決め、地道に続けていたベーパーライザー（液化ガス用蒸発器・・・タンクの中で液化しているLPガスを強制的に気化する機器）の機器製造に集中する決断を下す。そこからは会社を立て直すべく、社員一丸となって、

20年前には20%ほどだったシェアを60%まで増やすことに成功した。言葉にすると簡単だが、そこにはなみなみならぬ努力があったことは言うまでもない。シェアアップの為、①大きさは従来の半分②高機能化③即納体制④サービスセンター（フリーダイヤル）設置⑤全国60カ所におよぶサービス網とライバルメーカーの追随を許さない体制を構築している。

プラント事業については過去の反省を活かし、社内にプラントエンジニアリングチームを発足、常に原価を考え、設計～施工まで一貫した体制を作り、大きな実績を上げ、今ではベーパーライザーと並ぶ、売上の大事な柱となっている。



▲ベーパーライザーの製造現場

▲燃焼実験設備が兼ね備えられた
有馬工場

オートガススタンドから簡易オートガススタンドへ

タクシー以外にLPガス車を使用するユーザーは自動車教習所が主だった。LPガスはガソリンの約60%という安価な燃料の為、少子化により厳しい経営で苦しんでいた教習所は、こぞってLPガス車を導入した。しかしオートガススタンドは年々減少（ピーク時1900ヶ所→現在約1500ヶ所）しており、わざわざ遠方のスタンドに燃料充填に行く手間が問題であった。それなら事業所や教習所内に供給場所を作ればいいのか、と簡易オートスタンドが出来たのが2000年、他社が先駆けて発売を始めた。当時は補助金も出たためスタンド設置事業所が増加した。だが、加圧用と充填用の2種類のガスの貯蔵・運搬が必要であったり、プロパン充填が出来ない弱点があった。そこで、同社は後発ではあるが、業界唯一の蒸発器専門メーカーとして、プロパン加圧方式の弱点を徹底解明し、充填スピード・操作性・安全性にこだわり、自社工場内実験設備をフル活用し、従来品よりも独自性と利便性を生み出し、より優れた製品の販売を開始した。

▲簡易オートガススタンドの
「オートコンボ」

ひょうごNo.1ものづくり大賞特別賞受賞

しかし販売には大変な手間と労力が必要だった、と宮寺氏は語る。まだまだ簡易スタンドの実績が少なく、認知が低かった為、具体的案件が発生した際、その都度管轄行政に事前相談して申請、という流れを繰り返す。そして設置許可が出るまで数カ月単位の時間を要する。これではちががあかない、また自社だけの問題ではない、と一念発起し、同業他社に声掛けをして、2007年「LPガス簡易スタンドメーカー協議会」を発足させ、翌年には「省令改正委員会」を発足して、簡易スタンドの法制化を目的に経済産業省との折衝に努める。



▲ひょうごNo.1ものづくり大賞の受賞の様子と表彰状



そしてようやく4年間の努力の結晶が実を結び、2012年省令改正を実現させたのである。

この苦勞の甲斐があり、その後は順調に設置が進み、もうすぐ100基というところまで来た。また昨年、平成29年度ひょうごNo.1ものづくり大賞特別賞を受賞。この賞は、兵庫県内に集積したものづくり企業のすぐれた技術や製品・部品に対し贈呈されるもので、ますますLPガス車普及に努めていく弾みが出来た。

社会貢献に向けて

簡易スタンドはLPガス車への燃料供給だけではない。有事の際のライフライン確保ができる。例えば、LPガス発電機による携帯電話等の充電、ガスストーブ、ガス炊飯器、給湯器、シャワーに使える。ということは、簡易スタンドを置いている企業は災害時のエネルギー基地となりうるので、“BCP（事業継続計画）を策定している、緊急事態への対応力の優れている企業”となり地域貢献が期待できる。もはやタクシー会社、自動車教習所にとどまらず、一般企業にも需要の波は来ている。ガソリンと併用できるので、食品・薬品・水等の配送車を保有している企業に向けて、燃料費削減とBCP対策として、LPガス車の訴求を始めている。さまざまな展示会に意欲的に参加し、出展企業に対し提案営業を開始、今後ますますの発展が期待される同社である。



▲昨年のメッセナゴヤにて

紹介アニメーション



ユーザー様の声



▲一般ユーザーに向けての訴求も始まっている